

安全講習 話のネタ (3)

1 注意とは何でしょう

○ 皆さんは、交通事故を起こした人や、交通事故のニュースを見て

注意が足りなかったんじゃない

もっと注意して運転すればよかったのに

などと思ったことはありませんか？

では、「注意」とは何でしょう。

私たちは日頃、自分の目でいろいろなものを見ていますが、見えているもの全てを意識して情報としてとらえているわけではありません。

つまり、目の前にあるものでも見えていなかったり見落としていたりすることは少なくありません。

運転中であれば運転に必要な信号や標識、周りの車や歩行者などを見て、情報としてとらえて対応することで安全に車を走らせることができます。

皆さんは、運転中は信号の色やその変わり方、タイミングなど、よく見て運転されていると思いますが、信号機の後ろの風景や歩行者の人数や服装などを通過した後で聞かれて答えることは難しいと思います。

なぜなら、車の運転に直接関係ないことについては見えていても情報として認識していないため、見えていないことと同じになっているのです。

このように人間は生活や行動にとって目で見えたものの中から必要なものや事柄をその時々「選び出して」「認識」し、情報としてとらえてうまく反応（対応）しているのです。

このような「選び出し」の働きを「注意」といいます。

しかし、選び出すものがその時に必要でないものであったり、多すぎたりすることがあります。

このような不要なものに目を向けたり、選び出している状態は「不注意」と呼ばれます。

注意力は生活の中で必要なことに目や耳を傾けて周りの物事やその状態を知る能力ですが、経験や欲求などによってそれぞれ違いがあることも知られています。

安全運転の妨げになるものに対する注意力を高めることは交通事故を防ぐことに対して重要であると思います。

心理学の研究では、人は「大切だと思うこと」「価値があると思うこと」

「重要性を理解していること」などに対してはよく注意を向けることが知られています。

例えば、同じ新聞を読んでも人によって記憶に残る記事が違うのはこのことです。

ですから、運転中に信号や標識などについて、それが自分の安全な運転にとって「大切」で「価値のある」「重要なもの」であることを、その理由を含めてよく理解しておく必要があると思います。

よく、交通事故を起こした人の話を聞くと

突然、車が飛び出してきた

急に人が現れた

などと話して、ブレーキを踏むのが間に合わなかったなどと言われる方がいます。

しかし、車が突然飛び出す前はその車はどこにいたのでしょうか、歩行者はどこからあなたの車の前に現れたのでしょうか。

きっとその前の段階では見えていたのに気にならなかったのが認識していなかったのでしょうか。

物陰や車の陰から人や車が出てきたとして自分の乗っている車はその物陰や陰になっている車のすれすれを通過して走行していることはないと思います。

ということは、物陰や車の近くを通過するとき「この場所は安全だ」と自分で判断して、対向車などに意識を向けてしまい、実際に物陰から出てこようとしている車や歩行者が見えているのに認識せずに「突然現れた」としてしまうのです。

運転中に目に見えるもの全てに対して認識することはできないと思います。

まして、速度が速くなればなるほど認識できるものの数は少なくなっています。

ですから事故を未然に防ぐためには何が危険か、その危険を予測して避けるためにはどこをどう見てどうすればよいかを判断し、行動しなければならないことが必要であると思います。（この場合速度を落とすこと）

「注意不足」と言われたいために、運転中はできるだけ多くの情報を見て、その情報の中で、事故を防ぐために必要な行動を判断し、実行し事故防止に努めてください。

これが注意して走ることの秘訣です。